

## 単独世帯の動向と今後の見通し

山内 昌和

(国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部 室長)

### 1. はじめに

単独世帯、いわゆる一人暮らしへの社会的な関心が高まっている。単独世帯といえば、従来は若者が一時的に経験する住まい方の一種というイメージが強かったように思われる。しかし近年は、中高年にも単独世帯が少なからずみられるなど、人々の住まい方としての単独世帯がより一般化するようになった。その結果、単独世帯の動向は、例えば藤森（2010）が示したように、日本社会に大きな影響を与える要素の1つとなっている。

本稿では、単独世帯の数および人口に占める単独世帯人員の割合に注目し、その推移や今後の見通しについて検討する。具体的な課題は次の2点である。第1に、既存の統計資料を用いて、単独世帯の過去の動向と今後の見通しを整理する。第2に、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）を対象として実施した市区町村別の将来の単独世帯の試算結果を整理する。

なお、本稿では、利用する統計にならって単独世帯という用語を用いるが、実質的には、いわゆる一人暮らしや単身世帯とほぼ同義である。

### 2. 国勢調査にみるこれまでの単独世帯の動向とその背景

#### (1) 単独世帯数の推移

最新の国勢調査によれば、2010年の日本の単独世帯の数は1,678万であった（図表-1）。同年の日本の人口が1億2,806万人、一般世帯数が5,184

万であったから、全人口の13.1%、すなわち7～8人に1人が単独世帯に属しており、一般世帯の32.4%、すなわち3世帯に1世帯が単独世帯という状況である。2010年の単独世帯の数は、従来最も多かった家族類型である夫婦と子から成る世帯の数を上回り、家族類型別にみた世帯数では最多となった。

単独世帯の数は、1980年<sup>1)</sup>には711万であり、2010年の約4割の水準であった。1980年以降、単独世帯数は一貫して増加し、増加率はいずれの5年間とも10%を超えていた。その結果、総人口に占める単独世帯人員の割合は1980年の6.1%から上昇を続け、2000年には10%を超えた。また、一般世帯に占める単独世帯の割合は1980年代までは20%前後で推移していたが、その後上昇し、30%を超えるに至った。

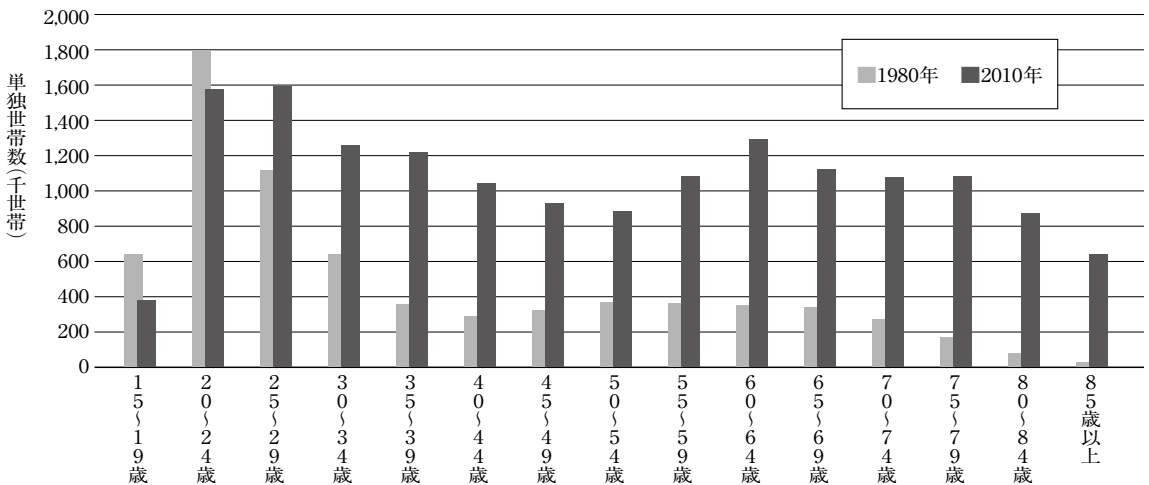
1980年と2010年の単独世帯数を年齢別にみたのが図表-2である。1980年には20歳代前半で最も多く、その後30歳代後半にかけて急速に少なくなり、50歳代に小さなピークはみられるものの、高齢者に関しては年齢とともに漸減する。2010年になると、高齢者に比べ若年者が多い点は共通するものの、1980年とは異なる分布を示す。2010年に最も多い年齢は20歳代後半であり、50歳代前半にかけて緩やかに少なくなるが、その後は反転して60～64歳でピークとなり、70歳代まではほぼ同水準で推移し、80歳代になると年齢とともに少なくなる。1980年と2010年の値を比較すると、10歳代後半と20歳代前半を除き、2010年の方が多。とりわけ30歳代後半以降の年齢では2010

図表-1 単独世帯数、総人口、一般世帯数の推移

| 年次   | 単独世帯数<br>(千世帯)<br>a | 総人口<br>(千人)<br>b | 一般世帯数<br>(千世帯)<br>c | 総人口に占める単独<br>世帯人員の割合 (%)<br>a/b | 一般世帯に占める単独<br>世帯の割合 (%)<br>a/c |
|------|---------------------|------------------|---------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 1980 | 7,105               | 117,060          | 35,824              | 6.1                             | 19.8                           |
| 1985 | 7,895               | 121,049          | 37,980              | 6.5                             | 20.8                           |
| 1990 | 9,390               | 123,611          | 40,670              | 7.6                             | 23.1                           |
| 1995 | 11,239              | 125,570          | 43,900              | 9.0                             | 25.6                           |
| 2000 | 12,911              | 126,926          | 46,782              | 10.2                            | 27.6                           |
| 2005 | 14,457              | 127,768          | 49,063              | 11.3                            | 29.5                           |
| 2010 | 16,785              | 128,057          | 51,842              | 13.1                            | 32.4                           |
| 2030 | 18,237              | 115,224          | 48,802              | 15.8                            | 37.4                           |

資料:「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所(2007a, 2008)  
注: 2030年の値は、2005年の国勢調査を基準とした推計値

図表-2 年齢別単独世帯数(1980年と2010年)



資料:「国勢調査」  
注: 14歳以下の単独世帯は15~19歳に含めた。年齢不詳は除いた

年の値が1980年を大きく上回る。

(2) 単独世帯数の増加の要因

単独世帯数の変化の背景には大きく2つの要因が関わっている。第1の要因は人口の変化である(以下、人口要因とする)。1980年と2010年では人口の規模が異なることに加え(図表-1)、高齢化も進んだ。例えば、65歳以上人口が総人口に占める割合は1980年の9.1%から2010年の23.0%に上昇し、2010年の65歳以上人口の規模は1980年の3倍近くにまで増加した。

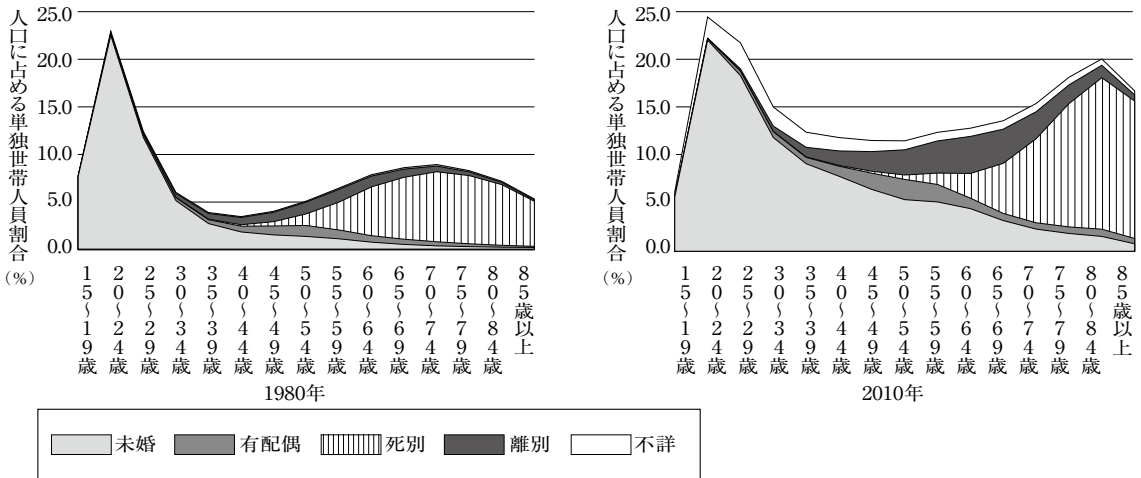
単独世帯数の変化の背景にある第2の要因は、人々の世帯形成行動の変化である(以下、世帯形

成行動要因とする)。これには、未婚化の進展によって二人以上の世帯ではなく単独世帯の形成が進むことや、配偶者と死別した高齢者が単独世帯を形成する傾向が高まったことなどが含まれる。

図表-3は世帯形成行動要因の変化を示すものとして、1980年と2010年について、人口に占める単独世帯人員の割合(以下、単独世帯人員割合とする)を年齢別配偶関係別に示したものである。同図は配偶関係別の値をそれぞれ面で表しており、一番上の線が配偶関係全体、すなわち年齢別にみた人口に占める単独世帯人員の割合を表している。

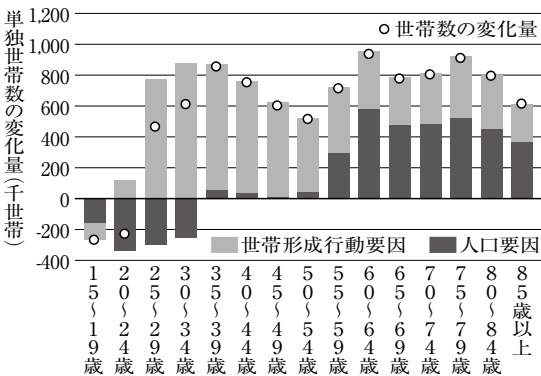
配偶関係全体の年齢別のパターンは、1980年と

図表-3 年齢別配偶関係別にみた人口に占める単独世帯人員の割合（1980年と2010年）



資料:「国勢調査」  
注: 14歳以下の単独世帯は15～19歳に含めた。年齢不詳は除いた

図表-4 年齢別にみた1980～2010年の単独世帯数の変化と要因別寄与量



資料:「国勢調査」  
注: 14歳以下の単独世帯は15～19歳に含めた。年齢不詳は除いた。  
単独世帯数の変化量は2010年の値から1980年の値を引いたものであり、計算方法は本文を参照のこと

2010年のいずれも若年と高齢の2つのピークを特徴とするが、1980年から2010年にかけて変化がみられた。変化の1つは単独世帯人員割合の全体的な上昇である。とりわけ20歳代後半から30歳代や70歳代後半以降で上昇幅が大きかった。変化の2点目は高齢のピークに関するもので、1980年の70歳代前半から2010年には80歳代前半へ推移するとともに、ピークの値が20歳代の値に近づいた。2010年には、20歳代は人口の20～25%程度、

30～60歳代では人口の10～15%程度、70歳代以降では人口の15～20%が単独世帯に所属するようになった。

配偶関係別にみると、2010年には不詳が少なからずみられるが、若年者では未婚、中年者では未婚や離別、高齢者では死別や離別の単独世帯人員割合の上昇が目立つ。また、中年者では有配偶の単独世帯人員割合の上昇もみられた。

1980～2010年の単独世帯の数の変化に対する人口要因と世帯形成行動要因の寄与を整理したのが図表-4である<sup>2)</sup>。人口要因については、30歳代前半までの若い年齢で単独世帯数を減らす方向に寄与し、30歳代後半から50歳代前半についてはほとんど寄与がみられないのに対し、50歳代後半以降は単独世帯数を大きく増加させる方向に寄与した。世帯形成行動要因については、10歳代後半を除いて単独世帯数を増加させる方向に寄与し、とりわけ20歳代後半～40歳代では寄与量が大きい。この間の世帯形成行動の変化は、単独世帯数を大きく増加させてきたといえる。

### (3) 都道府県別の動向

2010年の単独世帯数が多いのは東京都292万、大阪府137万、神奈川県129万、愛知県92万、北海道84万の順である(図表-5)。単独世帯の分布は、1つには人口の分布と関係している。例えば、

図表-5 2010年の単独世帯数と1980～2010年の単独世帯数の増加率

| 地域   | 単独世帯数<br>(2010年) | 標準化<br>指標<br>(2010年) | 1980～2010年の増加率(%) |       |              |        |        |        |        |
|------|------------------|----------------------|-------------------|-------|--------------|--------|--------|--------|--------|
|      |                  |                      | 総数                | 寄与量   |              | 20～39歳 | 40～64歳 | 65歳以上  | 75歳以上  |
|      |                  |                      |                   | 人口要因  | 世帯形成<br>行動要因 |        |        |        |        |
| 全国   | 16,784,507       | 1.00                 | 136.2             | 14.8  | 121.4        | 44.6   | 211.6  | 443.5  | 847.1  |
| 北海道  | 842,730          | 1.19                 | 123.9             | -2.0  | 125.9        | 34.1   | 202.7  | 544.6  | 1318.8 |
| 青森県  | 141,070          | 0.79                 | 105.8             | -16.2 | 122.0        | 2.5    | 140.9  | 524.0  | 1227.0 |
| 岩手県  | 132,370          | 0.78                 | 101.5             | -10.2 | 111.7        | 15.8   | 120.4  | 552.7  | 1376.1 |
| 宮城県  | 281,354          | 0.91                 | 146.6             | 20.3  | 126.2        | 59.0   | 257.4  | 665.8  | 1463.7 |
| 秋田県  | 95,609           | 0.68                 | 112.4             | -23.5 | 135.8        | 5.3    | 115.4  | 595.4  | 1651.2 |
| 山形県  | 89,817           | 0.62                 | 138.1             | -11.8 | 149.8        | 46.4   | 149.9  | 517.0  | 1255.8 |
| 福島県  | 188,617          | 0.72                 | 133.3             | -0.5  | 133.9        | 29.0   | 173.0  | 458.1  | 1082.8 |
| 茨城県  | 279,780          | 0.74                 | 199.6             | 28.8  | 170.8        | 75.5   | 325.5  | 544.1  | 966.4  |
| 栃木県  | 203,393          | 0.77                 | 192.3             | 21.7  | 170.6        | 64.6   | 299.6  | 523.2  | 1057.4 |
| 群馬県  | 197,673          | 0.77                 | 195.4             | 16.0  | 179.4        | 75.0   | 237.9  | 515.1  | 1023.9 |
| 埼玉県  | 806,579          | 0.88                 | 223.4             | 56.2  | 167.1        | 74.7   | 508.0  | 1103.2 | 1978.8 |
| 千葉県  | 761,231          | 0.92                 | 209.3             | 52.5  | 156.8        | 61.8   | 437.8  | 871.0  | 1392.3 |
| 東京都  | 2,922,488        | 1.60                 | 106.4             | 18.7  | 87.7         | 32.0   | 242.6  | 515.7  | 902.6  |
| 神奈川県 | 1,294,051        | 1.10                 | 157.0             | 45.5  | 111.5        | 54.1   | 329.4  | 796.6  | 1466.7 |
| 新潟県  | 214,867          | 0.71                 | 152.4             | -5.7  | 158.0        | 47.4   | 186.8  | 498.8  | 1162.4 |
| 富山県  | 92,449           | 0.67                 | 192.4             | -1.8  | 194.2        | 102.5  | 178.6  | 497.5  | 1122.6 |
| 石川県  | 130,150          | 0.85                 | 117.4             | 6.9   | 110.4        | 40.4   | 147.0  | 389.6  | 831.2  |
| 福井県  | 67,329           | 0.63                 | 143.5             | 2.6   | 141.0        | 58.1   | 128.7  | 305.9  | 638.0  |
| 山梨県  | 90,064           | 0.81                 | 175.1             | 13.0  | 162.1        | 75.9   | 210.0  | 377.3  | 764.5  |
| 長野県  | 203,860          | 0.76                 | 141.3             | 5.5   | 135.8        | 54.9   | 163.6  | 389.1  | 843.8  |
| 岐阜県  | 173,719          | 0.66                 | 127.6             | 9.7   | 117.9        | 52.9   | 156.6  | 495.1  | 985.1  |
| 静岡県  | 373,881          | 0.78                 | 153.9             | 15.3  | 138.5        | 48.0   | 216.9  | 605.2  | 1146.8 |
| 愛知県  | 923,424          | 0.96                 | 142.7             | 29.0  | 113.7        | 53.5   | 263.3  | 652.5  | 1207.6 |
| 三重県  | 189,123          | 0.79                 | 185.6             | 17.9  | 167.7        | 111.0  | 199.0  | 354.7  | 684.2  |
| 滋賀県  | 140,774          | 0.76                 | 246.8             | 56.0  | 190.8        | 149.8  | 329.7  | 428.0  | 805.1  |
| 京都府  | 400,722          | 1.09                 | 94.2              | 6.2   | 88.1         | 15.3   | 172.4  | 338.1  | 665.7  |
| 大阪府  | 1,367,908        | 1.18                 | 127.0             | 7.3   | 119.7        | 26.6   | 199.6  | 505.4  | 924.7  |
| 兵庫県  | 681,009          | 0.94                 | 139.2             | 13.8  | 125.4        | 38.5   | 170.6  | 398.8  | 751.2  |
| 奈良県  | 123,853          | 0.69                 | 180.5             | 27.1  | 153.4        | 47.7   | 233.9  | 481.3  | 915.8  |
| 和歌山県 | 107,692          | 0.78                 | 113.1             | -12.9 | 126.0        | 14.7   | 76.9   | 251.7  | 505.7  |
| 鳥取県  | 57,078           | 0.73                 | 135.9             | -4.4  | 140.4        | 60.3   | 106.7  | 275.2  | 579.1  |
| 島根県  | 71,916           | 0.77                 | 98.8              | -13.6 | 112.4        | 46.7   | 89.7   | 213.2  | 496.3  |
| 岡山県  | 226,002          | 0.87                 | 132.0             | 6.4   | 125.5        | 61.7   | 135.5  | 300.1  | 590.9  |
| 広島県  | 387,528          | 1.01                 | 121.8             | 6.9   | 114.9        | 40.8   | 147.3  | 288.5  | 575.0  |
| 山口県  | 182,632          | 0.96                 | 108.7             | -14.0 | 122.8        | 36.3   | 85.6   | 280.4  | 620.0  |
| 徳島県  | 87,495           | 0.82                 | 129.2             | -8.2  | 137.4        | 48.0   | 111.4  | 297.7  | 672.4  |
| 香川県  | 112,398          | 0.81                 | 152.9             | -0.7  | 153.6        | 62.2   | 125.5  | 269.7  | 579.3  |
| 愛媛県  | 182,588          | 0.97                 | 115.5             | -8.1  | 123.6        | 45.8   | 107.2  | 253.2  | 522.6  |
| 高知県  | 108,354          | 1.04                 | 88.0              | -12.2 | 100.2        | 24.5   | 64.0   | 201.7  | 418.0  |
| 福岡県  | 736,339          | 1.11                 | 156.3             | 18.8  | 137.5        | 68.5   | 208.9  | 402.0  | 818.4  |
| 佐賀県  | 72,779           | 0.68                 | 129.5             | -3.0  | 132.6        | 62.8   | 130.9  | 257.0  | 607.7  |
| 長崎県  | 163,899          | 0.88                 | 103.5             | -16.8 | 120.3        | 31.8   | 101.2  | 222.7  | 486.7  |
| 熊本県  | 197,270          | 0.83                 | 116.3             | 2.4   | 114.0        | 47.3   | 126.4  | 276.6  | 630.4  |
| 大分県  | 148,343          | 0.94                 | 112.2             | -4.2  | 116.4        | 46.0   | 107.7  | 292.4  | 700.0  |
| 宮崎県  | 136,615          | 0.93                 | 114.6             | -2.3  | 116.9        | 31.8   | 122.6  | 292.8  | 676.1  |
| 鹿児島県 | 243,096          | 1.08                 | 82.8              | -6.4  | 89.1         | 41.1   | 81.4   | 138.3  | 332.4  |
| 沖縄県  | 152,589          | 0.92                 | 209.7             | 44.8  | 164.9        | 126.3  | 266.1  | 247.2  | 313.3  |

資料:「国勢調査」

注:標準化指標および寄与量の計算方法は本文を参照のこと。年齢別の値に年齢不詳は含めていない

人口と単独世帯数の相関係数をとると、0.96と高い値を示す。

単独世帯の分布に影響を与える他の要因として、都市化ならびに直系家族の形成にみられる地域差をあげることができる。この点を示したのが図表-5の標準化指標である。同指標は、2010年における各都道府県の人口の規模と年齢構造が同年の全国と同じであると仮定した場合、各都道府県の単独世帯数がどの程度になるかを表したもので、全国に比べて単独世帯が形成されやすい場合には標準化指標が1よりも大きく、逆に単独世帯が形成されにくい場合には1よりも小さくなる<sup>3)</sup>。図表-5によれば、1を超えるのは東京都や北海道、大阪府、福岡県、神奈川県、京都府、鹿児島県、高知県、広島県である。これら都道府県は、東京都や大阪府のような大都市の都府県と、北海道や鹿児島県、高知県といったこれまで直系家族の形成がなされにくいとされてきた道県が含まれる。他方、同指標の値が0.7を下回るのは山形県、福井県、岐阜県、富山県、秋田県、佐賀県、奈良県であり、これらには直系家族の形成がなされやすいとされてきた日本海側の県と、大都市圏の郊外に位置づけられる県が含まれる<sup>4)</sup>。

このように、人口規模と都市化や家族形成にみられる地域差の影響を受ける単独世帯の都道府県別の分布であるが、1980年以降はいずれの地域でも顕著な増加がみられた。1980～2010年の単独世帯数の増加率をみたところ、最小の鹿児島県でも82.8、すなわち30年で約1.8倍になっており、なかには200以上、すなわち30年間で3倍以上になったのも4県あった。この単独世帯数の増加を人口要因の効果と世帯形成行動要因の効果に分けたところ<sup>5)</sup>、21道県では人口要因が単独世帯数を減らす方向に寄与していたが、世帯形成行動要因の効果が全都道府県で単独世帯数を増やす方向に寄与していた。つまり、1980～2010年にかけて総人口が減少した県があるものの、単独世帯人員割合が全都道府県で上昇していたため、全都道府県で単独世帯が増加していたとみなせるのである。また、標準化指標と世帯形成行動要因の寄与量との相関が-0.55であったことから、標準化指

標の小さい都道府県、つまり単独世帯の形成がされにくい都道府県で世帯形成行動要因の寄与量が大きかったことがわかる。

単独世帯数の増加を年齢別にみると、高齢者の方が増加の程度は著しい。20～39歳、40～64歳、65歳以上、75歳以上に区分して表示した図表-5によれば、1980～2010年の単独世帯数の増加率は、20～39歳は2.5～149.8、40～64歳は64.0～508.0、65歳以上は138.3～1103.2、75歳以上は313.3～1978.8であった。いずれの年齢も都道府県別にみた増加率にはかなりの幅がみられる。20～39歳や40～64歳に関しては、どちらかといえば大都市地域で高い値を示す傾向があり、この間の人口変化の影響を強く受けたものと考えられる。65歳以上や75歳以上の高齢者については、増加率がかなり大きい値となっており、とくに東日本でこうした傾向が顕著である。その背景として、東日本の1980年の単独世帯数がそもそも少なかったことや、世帯形成行動要因の影響が東日本で相対的に大きかったことが考えられる。

### 3. 国立社会保障・人口問題研究所の推計にみる将来の単独世帯の動向

本節では、2005年の「国勢調査」を基準として実施した国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研とする）の将来推計を利用して将来の単独世帯の動向を整理する<sup>6)</sup>。推計手法の概要は社人研HP<sup>7)</sup>や報告書（国立社会保障・人口問題研究所2007a, 2007b, 2008, 2010）に譲り、ここでは2030年の推計結果について、2005年との比較を中心に示す。

なお、参考までに、2005年の「国勢調査」を基準として実施した社人研推計の2010年の値と同年の「国勢調査」との誤差率を算出したところ<sup>8)</sup>、単独世帯数は-6.4%の過少推計、すなわち社人研推計よりも実績値の方が多かった。社人研推計を実施した時点までの過去の動向に比べ、2005年から2010年にかけて単独世帯の形成がより一層進んだといえる。

図表-6 2005年と2030年の単独世帯数および単独世帯人員割合

|                   |       | 総数     | 15-19歳 | 20-24歳 | 25-29歳 | 30-34歳 | 35-39歳 | 40-44歳 | 45-49歳 |
|-------------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 単独世帯数（千世帯）        | 2005年 | 14,457 | 436    | 1,742  | 1,619  | 1,351  | 994    | 795    | 718    |
|                   | 2030年 | 18,237 | 284    | 1,168  | 1,096  | 855    | 736    | 796    | 1,067  |
| 2005～2030年の増加率（%） |       | 26.1   | -34.9  | -33.0  | -32.3  | -36.7  | -26.0  | 0.1    | 48.5   |
| うち人口要因の寄与         |       | -8.0   | -34.0  | -30.5  | -29.5  | -36.4  | -28.5  | -17.0  | -5.5   |
| うち世帯形成行動要因の寄与     |       | 34.1   | -0.9   | -2.4   | -2.8   | -0.4   | 2.5    | 17.1   | 54.0   |
| 単独世帯人員割合（%）       | 2005年 | 11.3   | 6.6    | 23.6   | 19.5   | 13.8   | 11.3   | 9.8    | 9.3    |
|                   | 2030年 | 15.8   | 6.5    | 22.8   | 18.7   | 13.7   | 11.8   | 11.9   | 14.6   |

|                   |       | 50-54歳 | 55-59歳 | 60-64歳 | 65-69歳 | 70-74歳 | 75-79歳 | 80-84歳 | 85歳以上 |
|-------------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 単独世帯数（千世帯）        | 2005年 | 890    | 1,107  | 940    | 921    | 977    | 904    | 644    | 419   |
|                   | 2030年 | 1,435  | 1,881  | 1,749  | 1,565  | 1,322  | 1,379  | 1,402  | 1,506 |
| 2005～2030年の増加率（%） |       | 61.2   | 69.8   | 86.1   | 69.9   | 35.4   | 52.5   | 117.6  | 259.6 |
| うち人口要因の寄与         |       | -8.7   | -9.3   | -4.6   | -1.8   | -0.4   | 30.6   | 100.6  | 65.5  |
| うち世帯形成行動要因の寄与     |       | 69.9   | 79.2   | 90.7   | 71.7   | 35.8   | 21.9   | 17.0   | 194.1 |
| 単独世帯人員割合（%）       | 2005年 | 10.1   | 10.8   | 11.0   | 12.3   | 14.7   | 17.1   | 18.8   | 14.3  |
|                   | 2030年 | 17.8   | 20.1   | 21.4   | 21.3   | 19.8   | 19.7   | 19.5   | 17.7  |

資料: 国立社会保障・人口問題研究所 (2008)

注: 要因別の寄与の計算方法は本文を参照のこと

### (1) 今後の単独世帯の動向とその背景

人口や一般世帯数が減少に転じると推計される中で、単独世帯数は今後も増加すると予想される(図表-1)。2030年の単独世帯数は1,823万であり、2005年に比べ約1.3倍の増加となる。2035年の単独世帯人員割合は15.8%、一般世帯に占める単独世帯の割合は37.4%と見込まれる。

2005年と2030年の単独世帯数を年齢別に比較したのが図表-6である。それによると、2005年には20歳代や30歳代前半といった若年者を中心とする単独世帯数の分布パターンが2030年には高齢者を中心とする分布パターンへと変化する。また、2005～2030年の年齢別にみた単独世帯数の増加率では高齢者の方が高い値を示す。例えば85歳以上の増加率は259.6%、すなわち2030年の85歳以上の単独世帯数は2005年時点の約3.6倍となる。それに対し、かつて単独世帯数の多くを占めた20～24歳、25～29歳については、同期間の増加率がそれぞれ-33.0%、-32.3%であり、今後は減少することが見込まれる。

2005～2030年にかけての単独世帯数の増加は、人口要因と世帯形成行動要因に分けて理解することができる。図表-6は、社人研の公表した参考推計を利用し、2005～2030年の単独世帯数の増加を要因分解したものである。ここでの参考推計とは、世帯形成行動が変化しないとみなした場合の推計であり、人口の規模と構造の変化のみを考慮した推計である<sup>9)</sup>。それによれば、単独世帯全体では人口要因は単独世帯数を減らす方向で寄与するが、世帯形成行動要因が単独世帯数を増やす方向で寄与し、結果として単独世帯数が増加する。年齢別にみると、70～74歳までは人口要因が単独世帯数を減らす方向で寄与しており、人口要因が単独世帯数の増加に寄与するのは75歳以上のみである。こうした人口要因の背景には、今後も続く仮定された少子化の影響や、加齢にともなう人口構造の高齢化といったことがある。世帯形成行動要因は30～34歳まではわずかながら単独世帯数を減少させる方向で寄与するが、35歳以上は単独世帯数を増加させる方向で寄与する。若年層

では未婚化は進むもののかつてほど親元からの離家が進まないのに対して、中・高齢者では引き続き未婚化や離別の増加、高齢者の親子同居が進まない傾向が続くと考えられるためである。

こうした単独世帯数の見通しは、今後の単独世帯人員割合にも影響を及ぼす。図表-6によれば、30歳代までは2005年と2030年でほとんど変化はみられないが、40歳代以降、とくに50歳代や60歳代でその割合は大きく上昇する。その結果、2030年には、50歳代後半以降ではおよそ20%、すなわち人口のほぼ5人に1人が単独世帯に属するようになるの見込まれる。

## (2) 都道府県別にみた将来の単独世帯の見通し

大多数の都道府県で人口や一般世帯数が減少に転じる中、単独世帯数はほとんどの都道府県で一貫して増加すると推計されており、2030年の単独世帯数および単独世帯人員割合は全ての都道府県で2005年を上回ると見込まれる。

都道府県別にみた2030年の単独世帯数、2005～2030年の単独世帯数の増加率および単独世帯人員割合を整理したのが図表-7である。総数をみると、増加率には8.0～62.9%の幅があり、総じて東北地方南部から近畿地方にかけての中央日本で高い値となる傾向がみられる。これを年齢別にみると、20～39歳では-2.2～-43.9%、40～64歳では21.4～92.7%、65歳以上では26.9～154.8%、75歳以上では29.5～244.8%であった。2030年には2005年に55～59歳であった第1次ベビーブーム世代が80～84歳になることもあって、65歳以上や75歳以上で単独世帯数の増加率が高い値を示す。

地域差については、20～39歳に関しては、年齢構造が若く出生率の高い沖縄県を除けば、総じて高い減少率を示す。その中で、東京都や大阪府をはじめ、大都市地域でも減少率が高い。大学進学や就職といった形で若年人口の集中するこれら地域では、いわゆる少子化の影響が相対的に強く表れるためであろう。一方、40歳以上の場合、大都市とその周辺地域で相対的に増加率が高くなりやすい。とくに高齢者については、例えば埼玉県

や千葉県では75歳以上で200%以上、つまり2030年には2005年に比べて75歳以上で単独世帯に所属する人々の数が3倍以上になる。この背景には、高度経済成長期以降続く人口移動によって大都市とその周辺地域に人口が集中し、当時若かったそれらの人々が加齢によって高齢となるため、当該地域では今後急激に高齢者が増えるとみられるためである。また、従来の動向を反映して、相対的に直系家族の形成がなされやすかった東日本の非大都市地域でも増加率が高い傾向にある。

単独世帯人員割合に関しては、総数ならびに、2005～2030年の変化が比較的大きい40～64歳と65歳以上の値を示した(図表-7)。総数については、2005年の6.9～19.4%から2030年の11.5～22.3%へ全ての都道府県で上昇すると見込まれており、全都道府県で人口の10人に1人以上が単独世帯に所属するようになる。40～64歳については2005年の6.2～17.0%から2030年の12.1～25.4%、65歳以上については8.1～22.2%から2030年の14.3～24.9%へといずれも全都道府県で上昇する。地域的にみると、いずれも大都市地域や西南日本で高く、東北地方や日本海側の地域で低い傾向がある。すでに指摘したように世帯形成のあり方には地域差があり、今後こうした地域差は残るとみられる。

## 4. 東京圏の市区町村別にみた今後の単独世帯数の試算結果

都道府県単位の推計結果からわかるように、今後の単独世帯数は地域差を伴いながら増加すると見込まれている。本節では、高齢の単独世帯数の増加が特に著しいと予想される東京圏の市区町村を対象に、今後の単独世帯数を推計し、その結果を検討する。ただし、ここでの推計は2005年の「国勢調査」を基準としたもので、単純な仮定に基づいたものである点をあらかじめ断っておきたい。

### (1) 推計方法の概略

推計手法には世帯主率法を用い、2030年の単独世帯数を年齢5歳階級別に推計した。推計の対

図表-7 都道府県別にみた単独世帯数、増加率および人口に占める単独世帯人員割合

| 都道府県 | 2030年の<br>単独世帯数 | 2005～2030年の単独世帯数の増加率(%) |            |            |           |           | 総人口に占める単独世帯人員割合(%) |       |        |       |       |       |
|------|-----------------|-------------------------|------------|------------|-----------|-----------|--------------------|-------|--------|-------|-------|-------|
|      |                 | 総数                      | 20～<br>39歳 | 40～<br>64歳 | 65歳<br>以上 | 75歳<br>以上 | 総数                 |       | 40～64歳 |       | 65歳以上 |       |
|      |                 |                         |            |            |           |           | 2005年              | 2030年 | 2005年  | 2030年 | 2005年 | 2030年 |
| 全国   | 18,236,908      | 26.1                    | -32.5      | 55.7       | 85.6      | 117.9     | 11.3               | 15.8  | 10.2   | 17.5  | 15.0  | 19.6  |
| 北海道  | 850,623         | 10.8                    | -43.9      | 31.1       | 69.6      | 107.6     | 13.6               | 18.2  | 12.2   | 19.9  | 17.6  | 21.5  |
| 青森県  | 155,677         | 20.4                    | -33.4      | 25.1       | 69.4      | 108.3     | 9.0                | 13.8  | 9.1    | 15.9  | 12.8  | 17.2  |
| 岩手県  | 145,550         | 19.6                    | -33.8      | 30.1       | 74.4      | 105.3     | 8.8                | 13.2  | 8.6    | 15.0  | 10.6  | 15.7  |
| 宮城県  | 292,360         | 17.5                    | -39.6      | 52.4       | 116.2     | 153.4     | 10.5               | 14.1  | 8.9    | 15.3  | 10.7  | 16.3  |
| 秋田県  | 106,684         | 19.8                    | -33.4      | 22.8       | 61.4      | 92.7      | 7.8                | 12.6  | 7.0    | 13.2  | 10.8  | 15.8  |
| 山形県  | 112,720         | 34.1                    | -22.8      | 46.7       | 98.8      | 120.4     | 6.9                | 11.5  | 6.2    | 12.1  | 8.1   | 14.3  |
| 福島県  | 224,669         | 30.6                    | -26.8      | 40.1       | 93.6      | 113.3     | 8.2                | 12.9  | 8.2    | 14.6  | 10.5  | 16.1  |
| 茨城県  | 329,341         | 38.3                    | -29.2      | 52.6       | 135.0     | 174.5     | 8.0                | 12.8  | 7.7    | 14.2  | 9.9   | 15.5  |
| 栃木県  | 241,182         | 40.2                    | -25.4      | 56.3       | 127.4     | 158.9     | 8.5                | 13.3  | 8.5    | 15.0  | 10.6  | 16.2  |
| 群馬県  | 236,350         | 38.4                    | -21.2      | 54.0       | 99.3      | 129.5     | 8.4                | 13.3  | 8.1    | 14.7  | 11.7  | 17.0  |
| 埼玉県  | 950,192         | 43.4                    | -27.6      | 62.5       | 154.8     | 244.8     | 9.4                | 14.6  | 9.3    | 16.3  | 12.4  | 17.9  |
| 千葉県  | 849,133         | 36.8                    | -31.9      | 61.7       | 140.5     | 214.7     | 10.3               | 14.9  | 9.5    | 16.3  | 12.9  | 18.1  |
| 東京都  | 2,873,744       | 17.6                    | -40.7      | 74.5       | 80.3      | 101.2     | 19.4               | 22.3  | 17.0   | 25.4  | 21.4  | 24.9  |
| 神奈川県 | 1,448,299       | 31.9                    | -32.4      | 72.0       | 125.6     | 176.3     | 12.5               | 16.6  | 11.1   | 18.1  | 15.2  | 20.1  |
| 新潟県  | 247,286         | 30.8                    | -28.1      | 46.4       | 98.3      | 127.7     | 7.8                | 12.5  | 7.3    | 13.6  | 9.1   | 15.0  |
| 富山県  | 110,954         | 37.4                    | -18.7      | 53.8       | 88.6      | 127.5     | 7.3                | 11.9  | 6.6    | 12.5  | 9.8   | 14.8  |
| 石川県  | 141,857         | 21.4                    | -31.3      | 49.0       | 88.1      | 119.6     | 10.0               | 14.1  | 8.4    | 14.8  | 12.1  | 16.9  |
| 福井県  | 83,119          | 39.4                    | -16.5      | 53.7       | 93.8      | 114.2     | 7.3                | 11.8  | 6.9    | 12.8  | 9.7   | 15.0  |
| 山梨県  | 106,481         | 28.5                    | -27.8      | 51.2       | 86.3      | 97.6      | 9.4                | 13.8  | 8.4    | 15.0  | 12.4  | 17.4  |
| 長野県  | 243,518         | 29.5                    | -27.9      | 52.0       | 83.4      | 97.8      | 8.6                | 13.1  | 7.8    | 14.3  | 10.8  | 16.3  |
| 岐阜県  | 220,244         | 44.7                    | -14.4      | 67.7       | 104.6     | 142.4     | 7.2                | 12.0  | 6.4    | 12.5  | 10.1  | 15.4  |
| 静岡県  | 458,186         | 38.0                    | -24.9      | 53.1       | 119.3     | 168.1     | 8.8                | 13.5  | 8.7    | 15.3  | 10.6  | 16.3  |
| 愛知県  | 1,076,209       | 37.4                    | -24.0      | 78.8       | 117.1     | 166.3     | 10.8               | 15.0  | 9.9    | 16.9  | 13.4  | 18.3  |
| 三重県  | 224,389         | 38.9                    | -18.5      | 61.9       | 80.0      | 104.1     | 8.7                | 13.5  | 7.9    | 14.4  | 13.2  | 17.8  |
| 滋賀県  | 172,806         | 48.7                    | -16.0      | 92.7       | 138.1     | 167.7     | 8.4                | 12.6  | 7.3    | 13.6  | 10.3  | 15.8  |
| 京都府  | 398,346         | 13.7                    | -37.0      | 53.9       | 68.2      | 99.3      | 13.2               | 16.8  | 10.1   | 16.9  | 17.3  | 21.2  |
| 大阪府  | 1,413,507       | 22.7                    | -34.2      | 44.6       | 72.9      | 128.9     | 13.1               | 18.3  | 12.4   | 20.2  | 20.7  | 24.5  |
| 兵庫県  | 765,333         | 34.4                    | -26.9      | 52.7       | 79.8      | 116.0     | 10.2               | 15.3  | 9.3    | 15.9  | 17.5  | 21.6  |
| 奈良県  | 147,452         | 41.1                    | -22.8      | 50.5       | 94.0      | 142.0     | 7.4                | 12.6  | 6.5    | 12.6  | 13.0  | 17.5  |
| 和歌山県 | 111,990         | 23.4                    | -21.9      | 23.5       | 42.6      | 60.1      | 8.8                | 14.1  | 8.0    | 14.0  | 17.2  | 20.9  |
| 鳥取県  | 67,160          | 27.2                    | -23.5      | 48.9       | 65.3      | 79.5      | 8.7                | 13.0  | 7.8    | 14.1  | 11.8  | 16.2  |
| 島根県  | 76,087          | 14.7                    | -30.7      | 34.1       | 43.1      | 56.5      | 8.9                | 12.9  | 7.6    | 13.8  | 12.1  | 16.2  |
| 岡山県  | 252,834         | 25.8                    | -26.6      | 58.9       | 68.0      | 89.0      | 10.3               | 14.5  | 8.5    | 15.2  | 14.3  | 18.6  |
| 広島県  | 398,899         | 18.8                    | -34.9      | 46.0       | 66.0      | 88.7      | 11.7               | 15.9  | 9.8    | 16.6  | 17.0  | 20.6  |
| 山口県  | 183,574         | 10.3                    | -35.5      | 26.0       | 35.6      | 59.6      | 11.2               | 15.6  | 9.4    | 16.1  | 17.6  | 20.8  |
| 徳島県  | 94,570          | 18.1                    | -31.0      | 37.6       | 52.5      | 73.5      | 9.9                | 14.3  | 8.5    | 15.1  | 14.2  | 18.2  |
| 香川県  | 119,581         | 24.3                    | -28.0      | 41.0       | 61.1      | 83.1      | 9.5                | 14.1  | 8.7    | 15.4  | 14.0  | 18.1  |
| 愛媛県  | 191,130         | 14.6                    | -34.2      | 32.0       | 45.3      | 60.7      | 11.4               | 16.0  | 9.9    | 17.0  | 17.3  | 20.7  |
| 高知県  | 110,956         | 8.0                     | -35.8      | 21.4       | 30.1      | 42.5      | 12.9               | 17.5  | 11.7   | 18.9  | 19.8  | 22.9  |
| 福岡県  | 746,175         | 18.4                    | -35.0      | 50.2       | 70.1      | 100.7     | 12.5               | 16.2  | 10.8   | 17.5  | 17.3  | 20.5  |
| 佐賀県  | 90,651          | 39.1                    | -13.8      | 55.1       | 76.0      | 95.2      | 7.5                | 12.2  | 7.0    | 13.4  | 11.6  | 16.1  |
| 長崎県  | 176,064         | 17.7                    | -29.0      | 25.8       | 48.5      | 64.0      | 10.1               | 14.8  | 9.4    | 16.1  | 16.3  | 19.7  |
| 熊本県  | 220,237         | 25.0                    | -25.8      | 43.8       | 62.2      | 76.4      | 9.6                | 13.9  | 8.4    | 15.0  | 14.0  | 18.1  |
| 大分県  | 154,077         | 16.2                    | -30.3      | 36.3       | 46.9      | 66.3      | 11.0               | 15.1  | 9.3    | 15.9  | 16.1  | 19.5  |
| 宮崎県  | 148,967         | 19.7                    | -29.0      | 27.5       | 53.6      | 71.5      | 10.8               | 15.5  | 9.6    | 16.3  | 17.5  | 20.9  |
| 鹿児島県 | 250,221         | 9.5                     | -32.6      | 29.0       | 26.9      | 29.5      | 13.0               | 17.1  | 10.8   | 17.7  | 22.2  | 24.0  |
| 沖縄県  | 217,524         | 62.9                    | -2.2       | 84.6       | 125.6     | 139.0     | 9.8                | 15.2  | 11.3   | 18.8  | 15.8  | 20.8  |

資料：国立社会保障・人口問題研究所（2010）



象としたのは埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
の市区町村（2008年12月1日現在の境域で政令市  
の区は除いた221市区町村）である。推計に必要な  
仮定値のうち、将来の市区町村別の人口について  
は社人研推計（国立社会保障・人口問題研究所  
2009）を利用した。将来の単独世帯の世帯主率に  
ついては、すでに社人研が公表した都道府県別の  
人口と世帯数の将来推計の結果を利用し（国立社  
会保障・人口問題研究所 2007b, 2010）、ある市区  
町村と当該の市区町村が属する都県の2005年の世  
帯主率の格差が将来も一定であるとみなして作成  
した。推計結果については、各市区町村の推計値  
を合計すると社人研が公表した都道府県別の将来  
推計の値に合致するように、一律に補正した。

なお、推計結果の記述に際しては紙幅の都合で  
島嶼部を除いており、この点をご容赦いただきたい。

## (2) 市区町村別にみた将来の東京圏の 単独世帯の見通し

2005～2030年の単独世帯数の増加率を示した  
のが図表-8である。総数についてみると、ほと  
んどの市区町村で単独世帯数は増加する。総じて  
埼玉県、千葉県、神奈川県で増加率が高く、とく  
に埼玉県の南西部や千葉県の北西部では増加率が  
40%を超える市区町村が分布する。

年齢別にみると、20～39歳についてはほと  
んどの市区町村で単独世帯数は減少する。相対的に  
減少が緩やかなのはさいたま市とその周辺、千葉  
市とその周辺、横浜市とその周辺の市区町村であ  
り、その他は軒並み増加率が-30%を下回ってい  
る。東京都に関しては都心部とその周辺でも増加  
率は低い。

40～64歳については、東京圏の中心部で高い  
増加率を示し、外縁部では増加率が低い傾向があ  
る。増加率がとくに高いのは、埼玉県の南東部、  
千葉県は浦安市から成田市にかけての地域、東京  
都では東京23区の中南部、神奈川県は川崎市や横  
浜市で、これらでは増加率が75%を超え、なか  
には100%、すなわち2005年の2倍以上になると見  
込まれる場合もある。

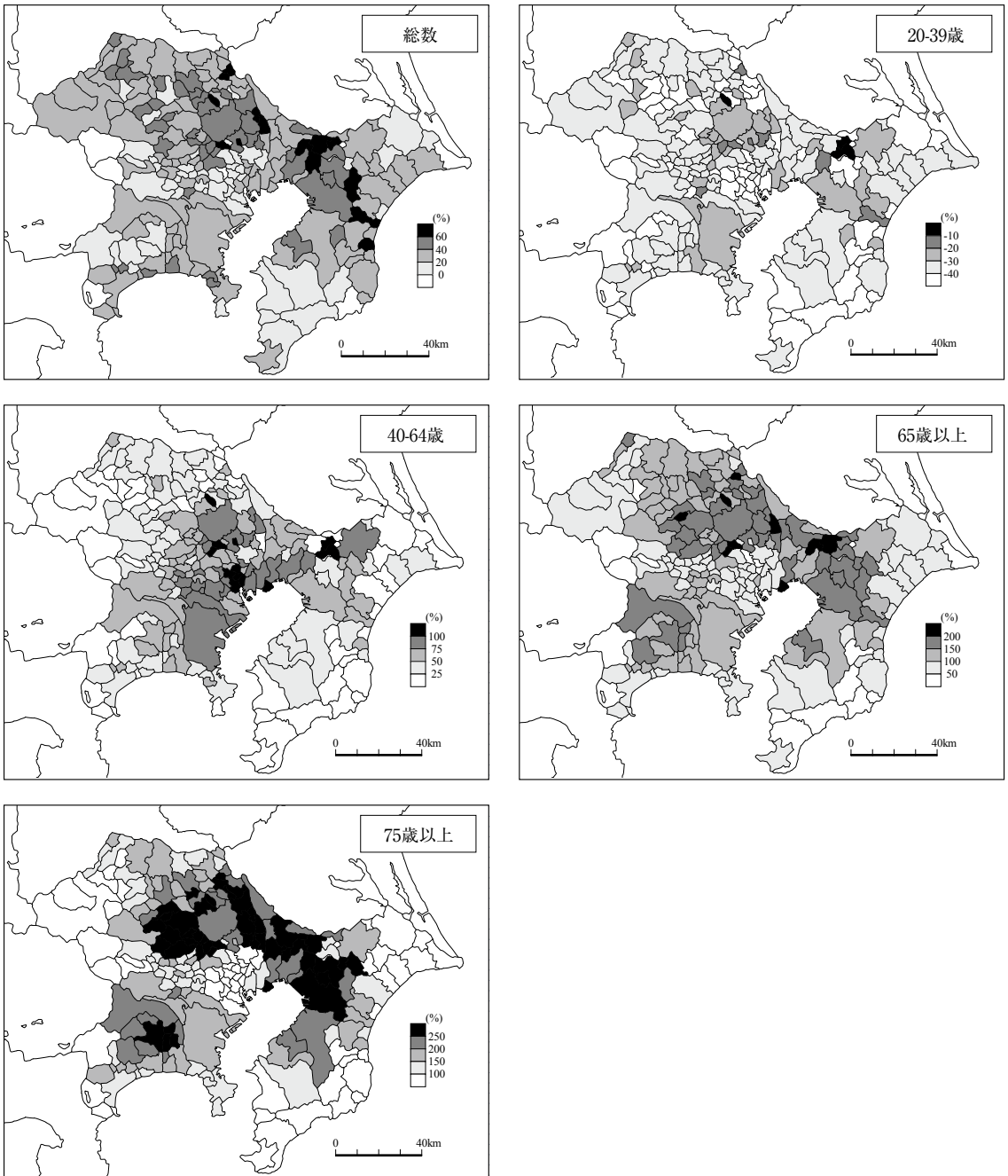
高齢者については、地理的なパターンは総数で  
みられたものと類似する傾向がある。65歳以上に  
ついては埼玉県南東部や千葉県の北西部、神奈川  
県では北中部で高い増加率を示し、これら地域で  
は150%以上、すなわち2005年の2.5倍以上にな  
る例がみられる。その他の地域では、相対的にみ  
れば増加率は低いものの、ほとんどの市区町村で  
50%以上の増加率となり、2005年の1.5倍以上に  
なると見込まれる。

75歳以上については、65歳以上と類似した地  
理的パターンを示す。埼玉県南東部や千葉県の北  
西部、神奈川県北中部では増加率が200%を超  
える市区町村が少なからずみられ、なかには300%  
、すなわち2005年の4倍を超える例もある。その  
一方で東京都の23区をはじめ、埼玉県の西部や千  
葉県の北東部や南部、神奈川県西部のように、相  
対的にみれば増加率が低い地域もあるが、そのうち  
のほとんどで増加率は50%を超えている。

人口に占める単独世帯の割合については、い  
ずれも地理的なパターンと変化の仕方は類似してい  
るため、ここでは総数と、比較的年次間の変化が  
大きかった40～64歳、65歳以上のみ示す（図表  
-9）。いずれの年齢でも、2005年には都心部を中  
心として東京都の23区および区部に隣接する市  
部で20%を超え、都心部から離れるにつれ割合は  
低下し、外縁部では10%未満の地域が多くなる。  
2030年には、地理的なパターンは類似するもの  
、各市町村とも人口に占める単独世帯の割合が上昇  
する傾向にあり、20%を超える地域が埼玉県や千  
葉県、神奈川県のほかでも東京都の区部に近接す  
る地域を中心として拡大する。また、東京圏の外  
縁部でも、同割合が10%を超える市区町村が多  
くなる。

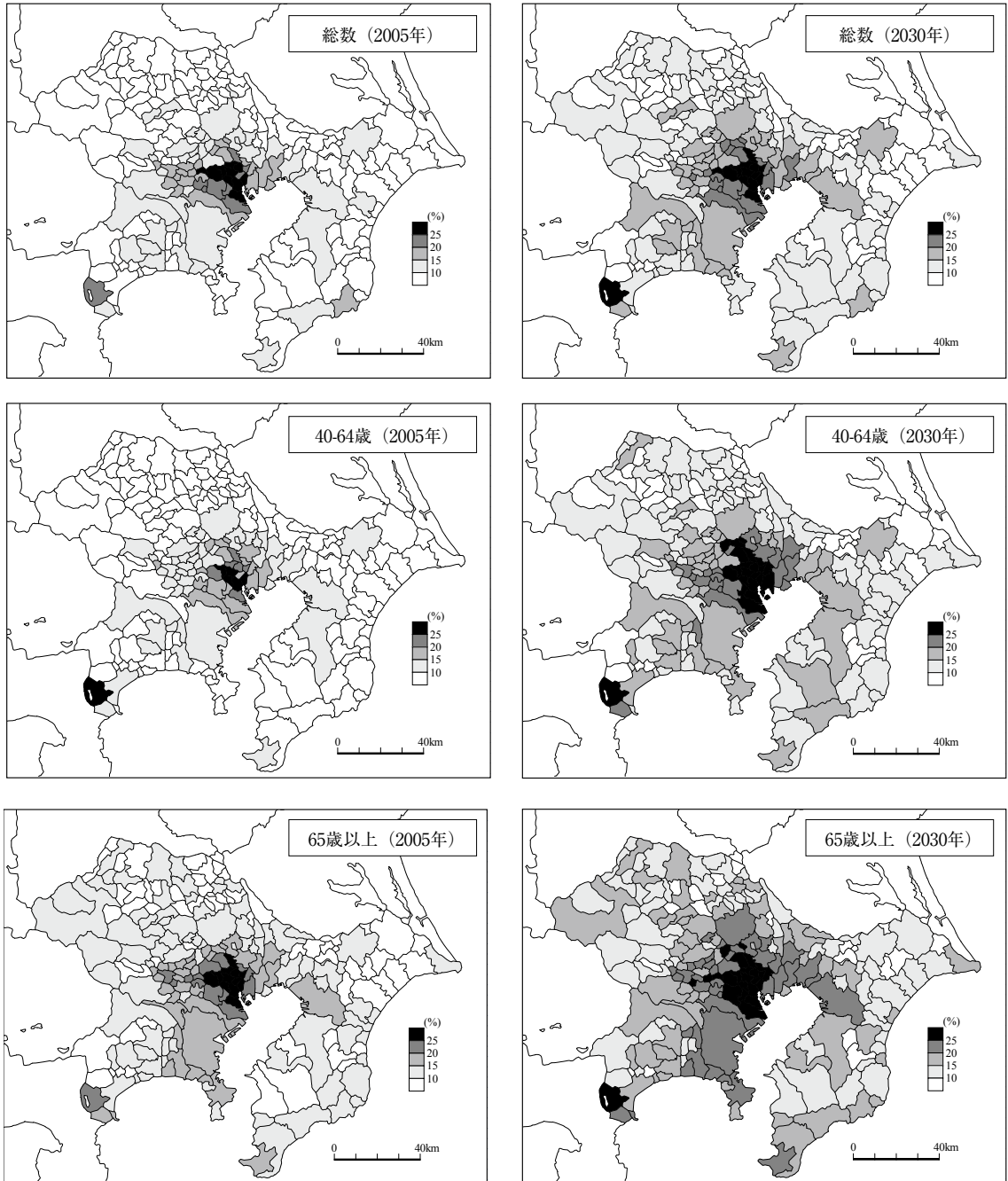
このように、全体としてみれば若年者で減少し  
、中・高齢者で増加する単独世帯数であるが、市区  
町村別にみると、同じ東京圏でも地域によってその  
動向にはかなりの差が生じるものと予想される。も  
ちろん、今回試算した結果は、2005年の「国勢調査」  
を基準としたものであり、単純な仮定に基づいて  
いるという制約はあるが、全国や都道府県単位で  
は認識できない地域間の多様性が明らかになった。

図表-8 2005～2030年の東京圏の市区町村別の単独世帯数の増加率



資料: 「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所(2007b, 2009, 2010)  
 注: 算出方法は本文を参照のこと

図表-9 東京圏の市区町村別の単独世帯人員割合（2005年と2030年）



資料:「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所(2007b, 2009, 2010)

注: 算出方法は本文を参照のこと

## 5. おわりに

本稿では、単独世帯の過去の動向と将来の見通しについて検討してきた。個別の結果を繰り返すことは控えるが、今後は全国的に若年の単独世帯数は減少し、中・高年の単独世帯数が増加するとともに、人口に占める単独世帯人員割合の上昇が見込まれる。

こうした見通しは、2人以上の世帯の数の減少とセットになって生じるため、社会のあり方にもさまざまな影響を与えることが予想される。高齢の単独世帯の増加は、医療や福祉をはじめとする社会保障のあり方に少なからぬ影響を及ぼすであろうし、若年の単独世帯が減り、中高年の単独世帯が増加すると、住宅や各種の消費者サービスの需要に変化が生じるであろう。日本では、社会を支えるさまざまな制度が2人以上で構成される世帯を前提としてきた面があるが、そうした前提を含めた制度の再検討も必要になるであろう。人口のみならず、世帯の今後の動向にも配慮しながら、将来への備えを進めていかねばならない。

### 注

- 1) 「国勢調査」では1980年から現在と同様の定義で世帯数の調査がなされるようになった。1970年と1975年については新しい定義に従って組み替えられた数値が公表されており、単独世帯数はそれぞれ614万、656万であった。
- 2) 算出方法は下記の通りである。t年におけるx歳の人口と単独世帯数をそれぞれP(t, x), H(t, x)とすると、2010年と1980年の単独世帯数の差は(1)式のように分解でき、右辺の第1項が人口要因、第2項が世帯形成行動要因とみなせる。実際の計算は年齢5歳階級別に実施した。  

$$H(2010, x) - H(1980, x) = 1/2 \times \{P(2010, x) - P(1980, x)\} \times \{H(2010, x) / P(2010, x) + H(1980, x) / P(1980, x)\} + 1/2 \times \{H(2010, x) / P(2010, x) - H(1980, x) / P(1980, x)\} \times \{P(2010, x) + P(1980, x)\} \dots (1)$$
- 3) ここでは人口学における標準化という手法を援用し、人口の規模と年齢構造の影響を除いた場合の各都道府県の単独世帯数を指標化した。算出方法は下記の通りである。都道府県iのt年におけるx歳の人口と単独世帯数をそれぞれP(t, x, i), H(t, x, i)とし、全国の値をP(t, x, I), H(t, x, I)とすると、指標SHは(2)式で表すことができる。実際の計算は年齢5歳階級別に実施した。

$$SH = \frac{\sum_x [P(t, x, I) \times \{H(t, x, i) / P(t, x, i)\} / \sum_x H(t, x, I) \dots (2)}$$

- 4) 日本国内の家族形成の地域差について指摘したものととして、例えば清水(1992)がある。
- 5) 算出方法は下記の通り。t年における人口と単独世帯数をそれぞれP(t), H(t)とすると、(3)式のように分解でき、右辺の第1項が人口要因、第2項が世帯形成行動要因とみなせる。基本的な考え方は(1)式と同様だが、ここでは年齢は考慮していない。  

$$\{H(2030) - H(2005)\} / H(2005) = 1/2 \times \{P(2030) - P(2005)\} \times \{H(2030) / P(2030) + H(2005) / P(2005)\} / H(2005) + 1/2 \times \{H(2030) / P(2030) - H(2005) / P(2005)\} \times \{P(2030) + P(2005)\} / H(2005) \dots (3)$$
- 6) 2010年の「国勢調査」を基準とした将来推計は、本誌執筆時点で全国人口のみが公表され、地域別人口や世帯数の将来推計は未公表のため、2005年の「国勢調査」を基準とした将来推計を利用する。
- 7) 社人研の実施する将来推計は、下記URLより閲覧できる。  
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.asp>
- 8) 算出方法は下記の通り。2010年の「国勢調査」の値をA、2010年の社人研推計の値をBとすると、誤差率は(4)式の通り。なお、総人口と一般世帯数の誤差率は、それぞれ-0.7%、-3.0%であった。  

$$\text{誤差率} = (B - A) / A \times 100 \dots (4)$$
- 9) 参考推計とは、より厳密には男女別、5歳階級別の配偶関係と世帯内地位の組み合わせ分布を2005年の値で以後一定とした場合の推計である。この参考推計を利用した要因分解の方法は下記の通り。2005年の単独世帯数をH(2005)、2030年の推計値をH(2030)、2030年の参考推計値をH'(2030)とすると(5)式のように分解でき、右辺の第1項が人口要因、第2項が世帯形成行動要因とみなせる。なお、注3)の要因分解とは方法が異なるが、ここでは社人研推計を用いることを優先した。  

$$\{H(2030) - H(2005)\} / H(2005) = \{H'(2030) - H(2005)\} / H(2005) + \{H(2030) - H'(2030)\} / H(2005) \dots (5)$$

### 文献

- 国立社会保障・人口問題研究所, 2007a, 『日本の将来推計人口(平成18年12月推計)——平成18(2006)～平成67(2055)年 附:参考推計 平成68(2056)～平成117(2105)年』人口問題研究資料第315号。
- , 2007b, 『日本の都道府県別将来推計人口(平成19年5月推計)——平成17(2005)～47(2035)年』人口問題研究資料第316号。
- , 2008, 『日本の世帯数の将来推計(全国推計)(2008(平成20)年3月推計)——2005(平成17)～2030(平成42)年』人口問題研究資料第318号。
- , 2009, 『日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)——平成17(2005)～47(2035)年』

人口問題研究資料第321号.

——, 2010, 『日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）（2009（平成21）年12月推計）——2005（平成17）～2030（平成42）年』人口問題研究資料第323号.

清水浩昭, 1992, 『高齢化社会と家族構造の地域性』時潮社.

藤森克彦, 2010, 『単身急増社会の衝撃』日本経済新聞出版社.

やまうち・まさかず 国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部 室長。主な論文に「近年の日本における外国人女性の出生数と出生率」（『人口問題研究』66（4），2010）。人口学、地理学専攻。